

平成21年度
島根県産業廃棄物実態調査報告書〈概要版〉
(平成20年度実績)

平成22年2月

島根県環境生活部廃棄物対策課

目次

1. 調査の概要	1
(1)調査目的	1
(2)調査対象期間	1
(3)調査方法	1
(4)調査対象業種	1
(5)調査対象廃棄物	1
2. 調査結果	2
(1)農業を含む産業廃棄物の状況	2
ア 発生状況	2
イ 排出状況	3
(2)農業を除く産業廃棄物の状況	4
ア 発生状況	4
イ 排出状況	5
ウ 処理・処分状況	6
(3)前回調査との比較	8
(4)発生及び処理状況等の将来予測	9

1. 調査の概要

(1) 調査目的

島根県内における産業廃棄物の発生及び処理・処分状況等の実態を把握し、廃棄物処理計画策定のための基礎資料を得ることを目的とした。

(2) 調査対象期間

平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日までの1年間

(3) 調査方法

排出事業者に対するアンケート調査(ただし、農業については資料調査)

調査件数 4,591 件

回収件数 2,787 件(回収率:60.7%)

(4) 調査対象業種

日本産業分類(平成 19 年 11 月改正)による大分類 19 業種(略称で表示)について調査

①農業・林業 ②漁業 ③鉱業 ④建設業 ⑤製造業 ⑥電気・水道業 ⑦情報通信業
⑧運輸業⑨卸・小売業 ⑩金融・保険業 ⑪不動産業 ⑫学術研究 ⑬宿泊・飲食
⑭生活関連 ⑮教育・学習 ⑯医療・福祉 ⑰複合サービス業 ⑱サービス業 ⑲公務

(5) 調査対象廃棄物

廃棄物処理法及び同法施行令に規定する産業廃棄物(20 種類)及び特別管理産業廃棄物(6 種類)を対象に調査

また、法令上廃棄物とならない有償物(事業場内等で生じたもので、中間処理されることなく、他者に有償で売却したもの及び他者に有償で売却できるものを自己利用したもの)についても調査

産業廃棄物

①燃え殻 ②汚泥 ③廃油 ④廃酸 ⑤廃アルカリ ⑥廃プラスチック類 ⑦紙くず
⑧木くず ⑨繊維くず ⑩動植物性残さ ⑪動物系固形不要物 ⑫ゴムくず ⑬金属くず
⑭ガラス・コンクリート・陶磁器くず ⑮鉱さい ⑯がれき類 ⑰ばいじん ⑱動物のふん尿
⑲動物の死体 ⑳以上の廃棄物を処分するために処理したもの

特別管理産業廃棄物

①廃油 ②廃酸 ③廃アルカリ ④感染性産業廃棄物 ⑤廃石綿等 ⑥特定有害産業廃棄物

2. 調査結果

平成 20 年度に島根県内で発生した特別管理産業尾廃棄物を含む産業廃棄物等の発生及び処理・処分状況は、以下のとおりである。

(単位:千トン/年)

発 生 量	全業種	農業を除く
	2,202	1,645
有 償 物 量	34	34
排 出 量	2,169	1,612

数値については、四捨五入の関係で総数と個々の数値の合計が一致しない場合がある。

(1) 農業を含む産業廃棄物の状況

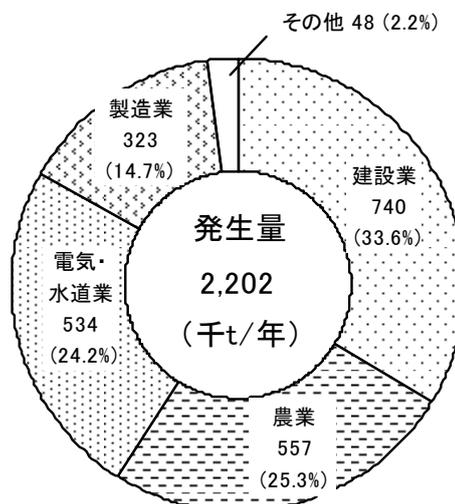
ア 発生状況

産業廃棄物の発生量は 2,202 千トンとなっており、業種別、種類別の発生状況については、次のとおりである。

①業種別発生量

●上位4業種で発生量の97.8%

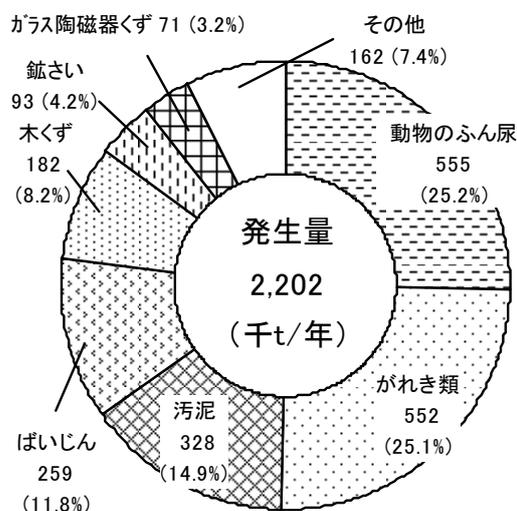
建設業が 740 千トン(33.6%)で最も多く、次いで、農業が 557 千トン(25.3%)、電気・水道業が 534 千トン(24.2%)、製造業が 323 千トン(14.7%)となっており、これら4業種で発生量の97.8%を占めている。



②種類別発生量

●上位5種類で発生量の85.2%

動物のふん尿が 555 千トン(25.2%)で最も多く、次いで、がれき類が 552 千トン(25.1%)、汚泥が 328 千トン(14.9%)、ばいじんが 259 千トン(11.8%)、木くずが 182 千トン(8.2%)となっており、これら5種類で発生量の85.2%を占めている。



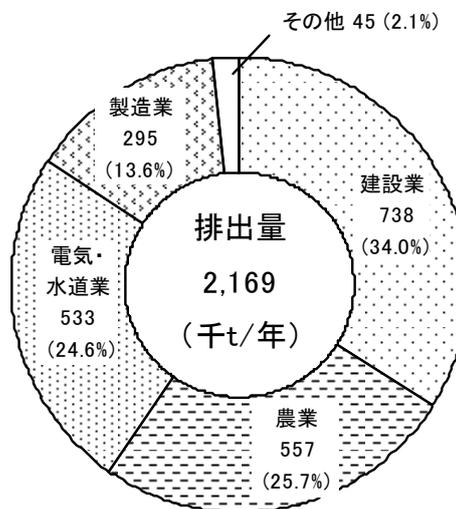
イ 排出状況

産業廃棄物の排出量は 2,169 千トンとなっており、業種別、種類別の排出状況については、次のとおりである。

①業種別排出量

●上位4業種で排出量の97.9%

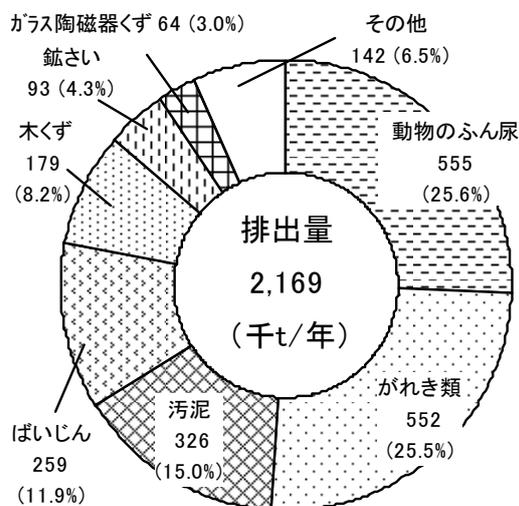
建設業が 738 千トン(34.0%)で最も多く、次いで、農業が 557 千トン(25.7%)、電気・水道業が 533 千トン(24.6%)、製造業が 295 千トン(13.6%)となっており、これら4業種で排出量の97.9%を占めている。



②種類別排出量

●上位5種類で排出量の86.2%

動物のふん尿が 555 千トン(25.6%)で最も多く、次いで、がれき類が 552 千トン(25.5%)、汚泥が 326 千トン(15.0%)、ばいじんが 259 千トン(11.9%)、木くずが 179 千トン(8.2%)となっており、これら5種類で排出量の86.2%を占めている。



(2) 農業を除く産業廃棄物の状況

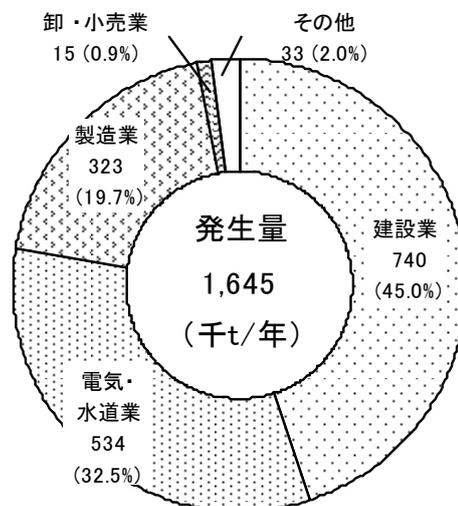
ア 発生状況

産業廃棄物の発生量は 1,645 千トンとなっており、業種別、種類別、地域別の発生状況については、次のとおりである。

①業種別発生量

●上位3業種で発生量の 97.2%

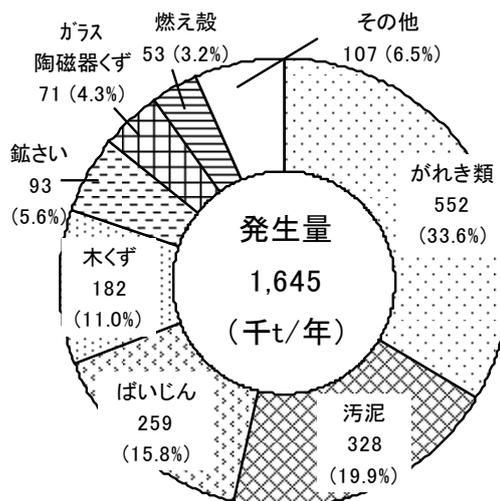
建設業が 740 千トン(45.0%)で最も多く、次いで、電気・水道業が 534 千トン(32.5%)、製造業が 323 千トン(19.7%)となっており、これら3業種で発生量の 97.2%を占めている。



②種類別発生量

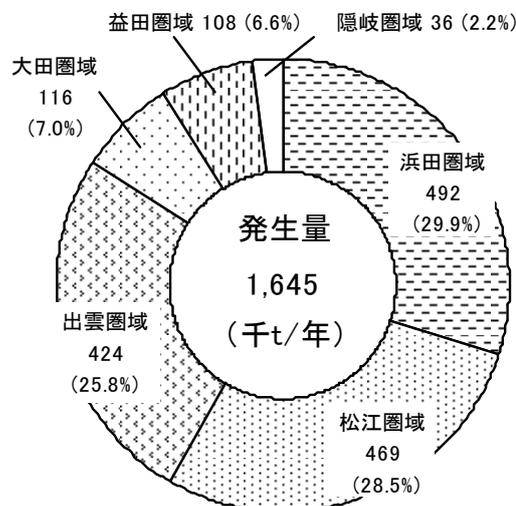
●上位5種類で発生量の 85.9%

がれき類が 552 千トン(33.6%)で最も多く、次いで、汚泥が 328 千トン(19.9%)、ばいじんが 259 千トン(15.8%)、木くずが 182 千トン(11.0%)、鉱さいが 93 千トン(5.6%)となっており、これら5種類で発生量の 85.9%を占めている。



③地域別発生量

発生量(1,645 千トン)を地域別にみると、浜田圏域が 492 千トン(29.9%)で最も多く、次いで、松江圏域が 469 千トン(28.5%)、出雲圏域が 424 千トン(25.8%)、大田圏域が 116 千トン(7.0%)、益田圏域が 108 千トン(6.6%)、隠岐圏域が 36 千トン(2.2%)の順になっている。



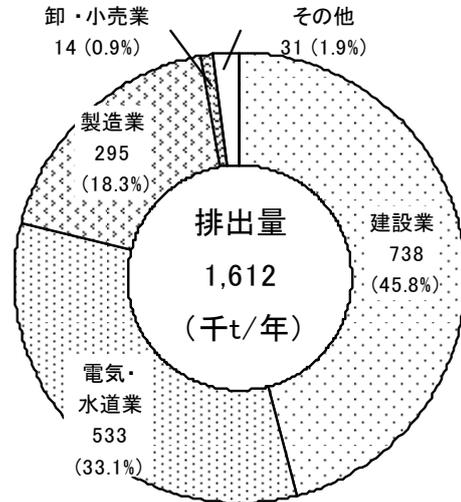
イ 排出状況

産業廃棄物の排出量は 1,612 千トンとなっており、業種別、種類別、地域別の排出状況については、次のとおりである。

①業種別排出量

●上位3業種で排出量の97.2%

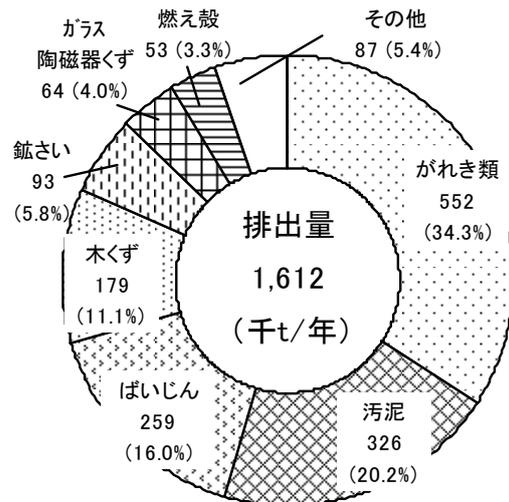
建設業が 738 千トン(45.8%)で最も多く、次いで、電気・水道業が 533 千トン(33.1%)、製造業が 295 千トン(18.3%)となっており、これら3業種で排出量の 97.2%を占めている。



②種類別排出量

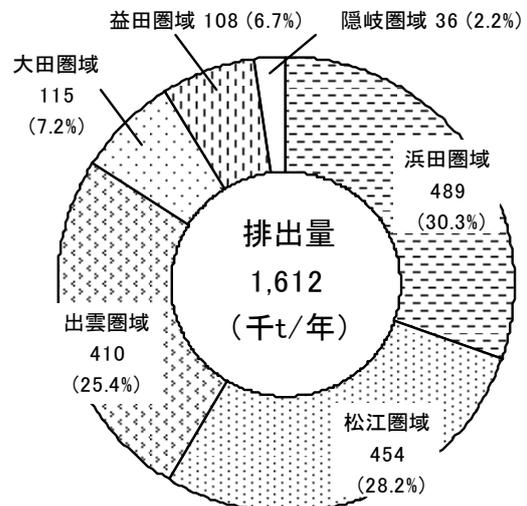
●上位5種類で排出量の87.4%

がれき類が 552 千トン(34.3%)で最も多く、汚泥が 326 千トン(20.2%)、ばいじんが 259 千トン(16.0%)、木くずが 179 千トン(11.1%)、鉱さいが 93 千トン(5.8%)となっており、これら5種類で排出量の 87.4%を占めている。



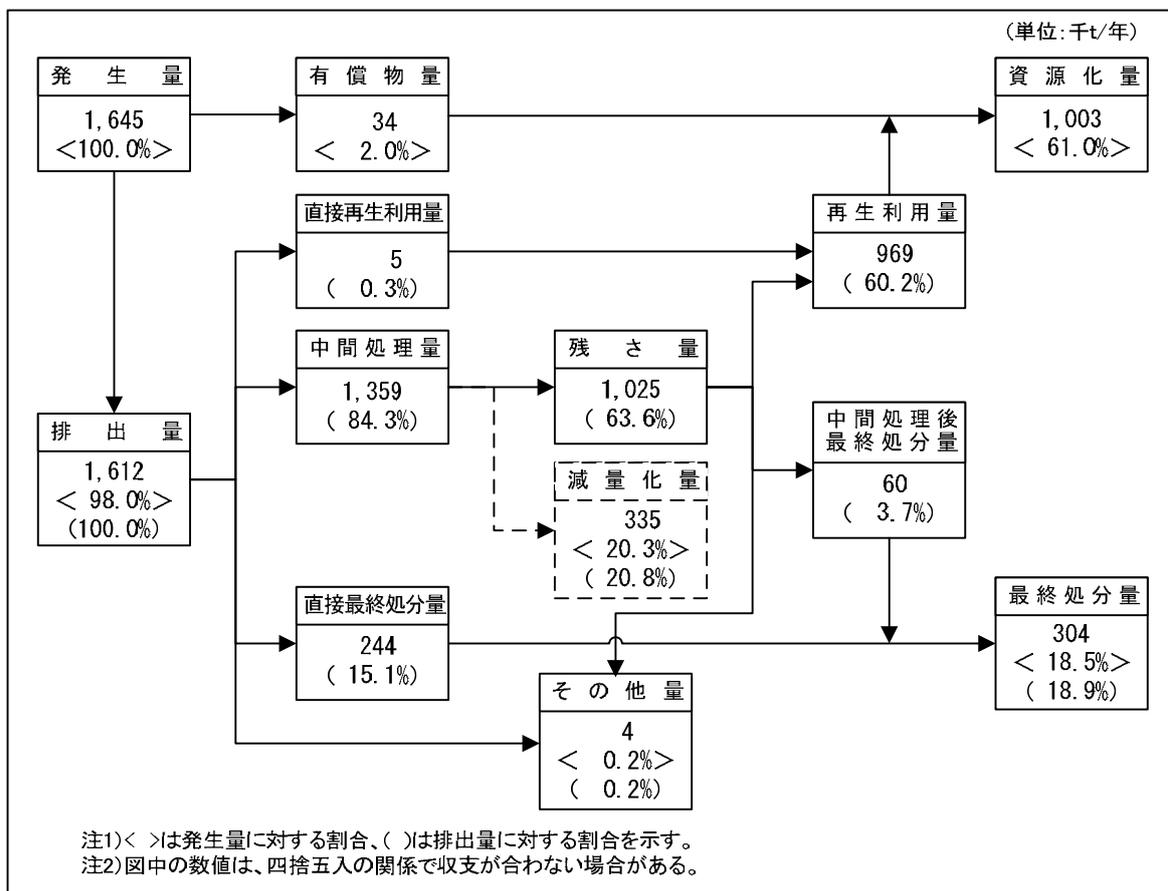
③地域別排出量

排出量(1,612 千トン)を地域別にみると、浜田圏域が 489 千トン(30.3%)で最も多く、次いで、松江圏域が 454 千トン(28.2%)、出雲圏域が 410 千トン(25.4%)、大田圏域が 115 千トン(7.2%)、益田圏域が 108 千トン(6.7%)、隠岐圏域が 36 千トン(2.2%)の順になっている。



ウ 処理・処分状況

産業廃棄物の発生・排出から処理・処分の流れは下図のとおりであり、排出量 1,612 千トンのうち再生利用量は 969 千トン(60.2%)、中間処理による減量化量は 335 千トン(20.8%)、最終処分量は 304 千トン(18.9%)となっている。

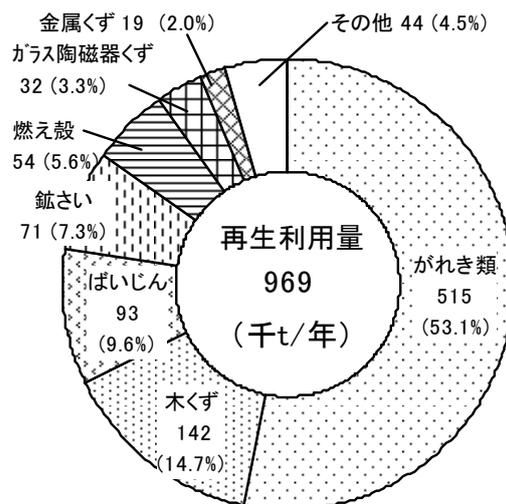


発生・排出及び処理・処分状況の流れ図

①再生利用量

●上位4種類で再生利用量の84.7%

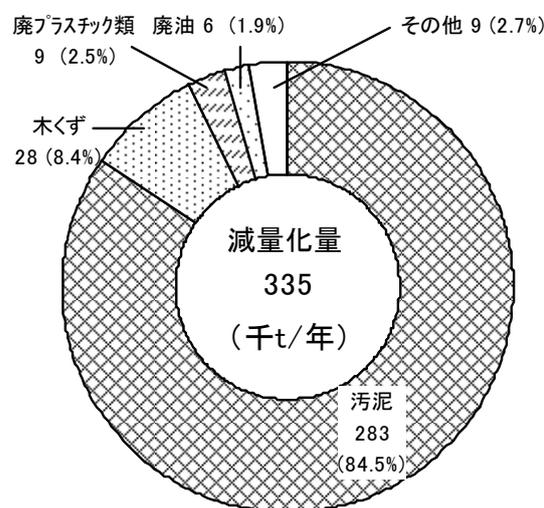
がれき類が515千トン(53.1%)で最も多く、次いで、木くずが142千トン(14.7%)、ばいじんが93千トン(9.6%)、鉱さいが71千トン(7.3%)等となっている。



②減量化量

●上位3種類で減量化量の95.4%

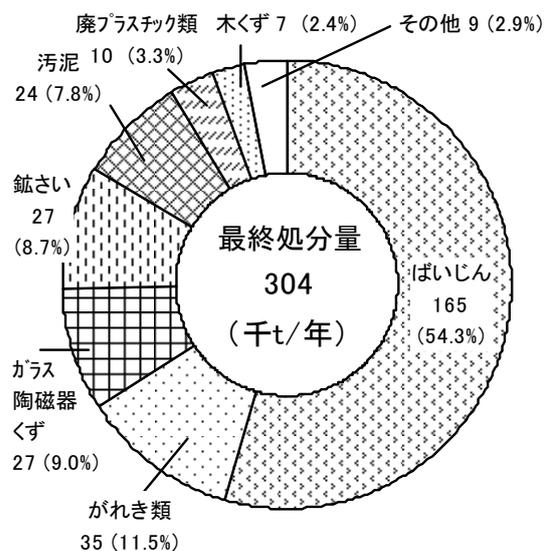
汚泥が283千トン(84.5%)で最も多く、次いで、木くずが28千トン(8.4%)、廃プラスチック類が9千トン(2.5%)等となっている。



③最終処分量

●上位5種類で最終処分量の91.4%

ばいじんが165千トン(54.3%)で最も多く、次いで、がれき類が35千トン(11.5%)、ガラス・コンクリート・陶磁器くずが27千トン(9.0%)、鉱さいが27千トン(8.7%)、汚泥が24千トン(7.8%)等となっている。



(3) 前回調査との比較

産業廃棄物の発生及び処理・処分の状況について、前回の調査(平成16年度実績)と比較すると、次のとおりである。

今回の調査では、発生量が前回に比べ1.3%増加しており、資源化量が54.4%から61.0%へ6.6ポイントの増加になっている。中間処理による減量化量では逆に26.4%から20.3%へ6.1ポイントの減少となっている。

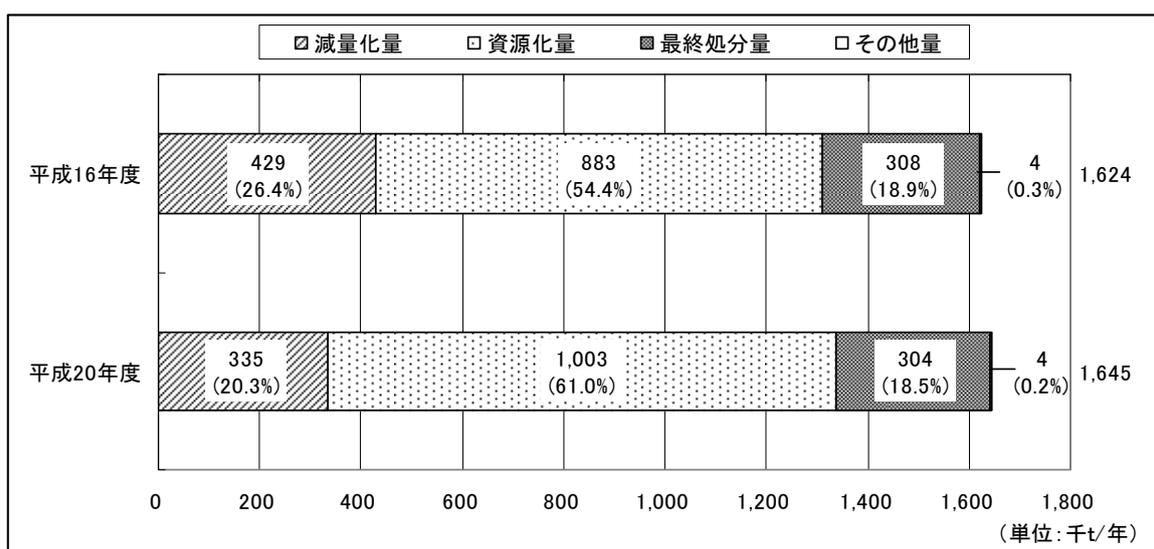
また、最終処分量は18.9%から18.5%へ0.4ポイントの減少となっている。

処理・処分状況の比較

(単位:千t/年)

項目	平成16年度	平成20年度	増減量	増減率(%)
発生量	1,624 (100.0%)	1,645 (100.0%)	21	1.3%
資源化量	883 (54.4%)	1,003 (61.0%)	120	13.6%
有償物量	36 (2.2%)	34 (2.0%)	-3	-7.4%
再生利用量	847 (52.2%)	969 (58.9%)	122	14.5%
減量化量	429 (26.4%)	335 (20.3%)	-94	-21.9%
最終処分量	308 (18.9%)	304 (18.5%)	-4	-1.2%
その他量	4 (0.3%)	4 (0.2%)	-1	-17.2%

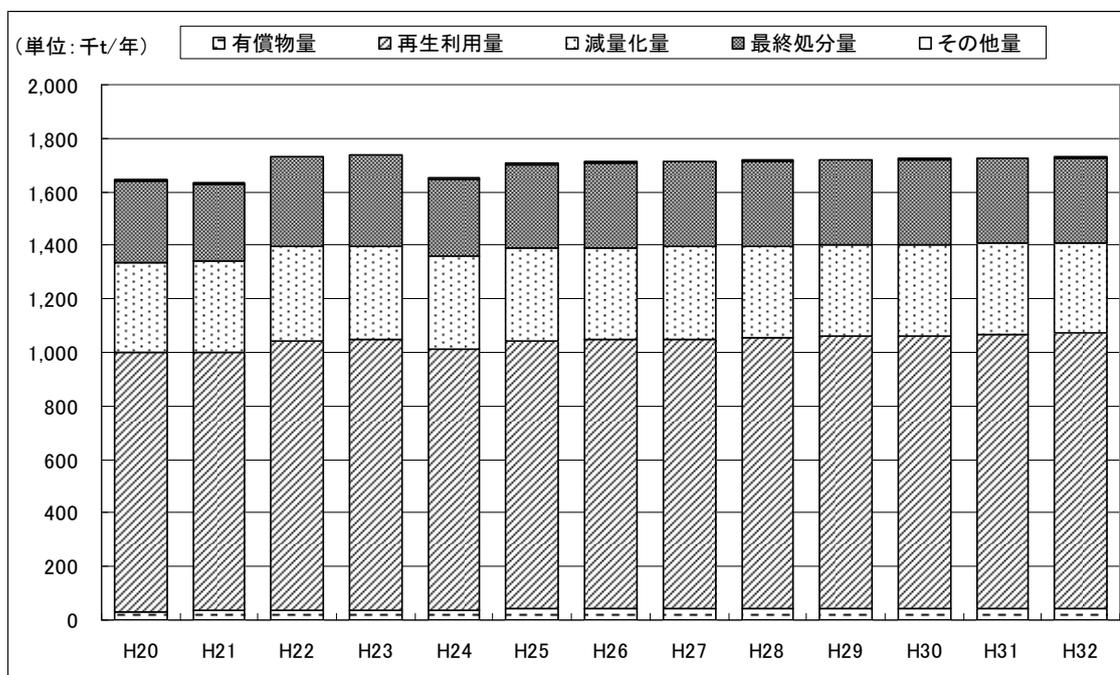
注) 表中の%表示については、四捨五入しているため、総数と個々の数値の合計が一致しないものがある。



(4) 発生及び処理状況等の将来予測

発生及び処理・処分の状況の将来予測結果は、次のとおりである。

将来の発生量及び排出量は、このままの推移でいくと、増減はあるが、緩やかに増加していくものと見込まれる。



(単位: 千t)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
発生量	1,645	1,632	1,734	1,738	1,653	1,706	1,710	1,714	1,718	1,721	1,725	1,728	1,732
有償物量	33	37	38	39	39	40	41	42	43	43	44	45	45
排出量	1,612	1,595	1,697	1,700	1,613	1,666	1,669	1,672	1,675	1,678	1,681	1,684	1,686
再生利用量	969	963	1,006	1,011	976	1,001	1,005	1,009	1,012	1,016	1,019	1,022	1,026
減量化量	335	344	350	349	347	346	345	343	342	341	340	339	338
最終処分量	304	285	336	337	287	316	316	317	317	318	319	319	320
その他量	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

注)表中の数値については、四捨五入の関係で合計と個々の計とが一致しないものがある。